

# News & Scope Handai Hospital

阪大病院ニュース

第36号

発行／大阪大学医学部附属病院広報委員会（総務課）  
http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載

（この紙面は再生紙を使っています）

住所／〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15 TEL／06-6879-5021

## 新型 & 季節性 インフルエンザ



病院入り口には消毒液も設置しているのでご利用を

## 院内感染予防に ご協力を！

せきが出ていたり、のどが痛いなどの症状があれば、外来受付に行かず、総合案内で症状を告げてください。インフルエンザの疑いが強いときには、他の患者さんとは別の診察室で受診していただくことになります。

### お見舞いにも注意を

お見舞いに来られる方も注意していただきたいと思えます。来られたときには見舞われたときに正面玄関などに消毒液を置いてありますので、手の消毒をしてください。患者さんに感染させるリスクが下がります。家族など近くにインフルエンザに感染した人がいるときにはできるだけお見舞いに来るのを控えてください。

新型インフルエンザが感染のピークを迎えつつあります。季節性インフルエンザも流行期に入ってきました。阪大病院には感染すると重症化するリスクの高い基礎疾患のある患者さんが通院、入院しておられますので、予防には細心の注意が必要です。阪大病院に受診やお見舞いに来られる方はどのようなことに気を付けなければいけないのでしょうか。

### まずは電話で

インフルエンザに感染してしまったと思われる人で阪大病院を受ける人では直接、病

院へ来るのではなく、まず電話で症状を伝えて、担当者の指示に従ってください。

来院者は総合案内へまた、電話をせずに直接、来院された患者さんで発熱があったり、

### 感染を防ぐ対策は？

阪大病院にはインフルエンザに感染すると重症化しやすいぜんそくなど呼吸器系の病気の糖尿病や人工透析を受けておられる患者さんや妊婦さんが外来に来られます。また、臓器移植を行っていますので免疫抑制剤を服用している患者さんもおられます。入院患者さんも病気に感染するリスクが高いためです。それだけに職員はもちろんのこと、病院に来られる方にも患者さんにも感染させないように気を付けていただきたいのです。

さて、一般的なインフルエンザ予防対策です。インフルエンザは飛沫感染です。くしゃみやせきによってウイルスが飛散して感染します。感染した人から2メートル以上離れたら、うつる確率は非常に低くなります。小学生や中高生の間で感染者が多いのは教室などで児童、生徒の密度が高いからです。また、通勤や通学でも隣との間隔を2メートル離すことが不可能です。ワクチンの投与も始まりましたので、重症化する可能性の高い人は必ず受けることを勧めます。健康な人もワクチンを投与することで感染しても症状が重症になることは防ぐことができます。

## 地域医療機関との連携 予約業務、退院支援ともに充実



地域医療との連携を図る保健医療福祉ネットワーク部

### 保健医療福祉 ネットワーク部

保健医療福祉ネットワーク部は、地域医療機関との連携強化と患者サービスの充実を目指して2001年に設置されました。予約業務では、地域の医療機関から患者さんの紹介を受け、外来

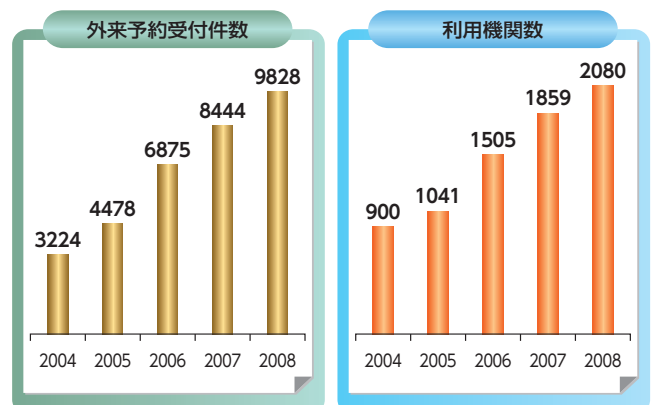
の診療予約の受付を行っています。また、在宅療養が必要な場合は、在宅医療・訪問看護師・ケアマネジャー等と調整を行っています。また、転院が必要な場合

外出から家に帰った手洗いとうがいには必ずすることです。せきが出るときにはつばなどが飛散しないようにマスクをしてください。マスクをしていないと、せきがでるときにはハンカチやティッシュで口を覆ったり、相手に直接つばなどがかかったりしないようにする「せきエチケット」を守ってください。

阪大病院でもそのような患者さんは早急に入院していただきます。他の患者さんに感染しないように個室への入院になります。事前に電話していただければ迅速に対応します。

新型インフルエンザを不安に考えることはありません。だれもが免疫を持つていないので感染しやすいだけで、季節性のインフルエンザ予防と同様の対応をしていただければそれほど心配することはありません。バランスのとれた食事をして体力をつけ、十分な睡眠、休養をとることでかなり感染を防ぐことができます。感染しても軽い症状で済みます。

地域医療機関からの外来予約受付件数と利用機関数の推移(2004～2008年)



は、患者さん、ご家族のご要望もお聞きしながら各医療機関と連携を取って医療の継続ができるよう調整しています。支援件数も昨年は年間500件近くとなり、年々増加傾向にあります。医療ソーシャルワーカー・看護師をそれぞれ増員し、対応できる体制づくりに努めています。

### 小児虐待・救命 救急にも対応

小児医療センターと連携し、小児虐待についてもこども家庭センターと連絡調整を行っています。また、高度救命救急センターからも退院調整を必要とされるケースが多く、出来る限り迅速に対応しています。

地域連携の需要が高まっているなか、引き続き効率的に業務を遂行していくようシステム改善・向上を目指していきます。



## 高校生が一日看護師体験



大阪府主催の高校生を対象とした「一日看護師体験」が7月31日、大阪府立千里青雲高等学校の総合学科看護専攻の9人の高校生を迎えて行われました。

午前中に病棟で患者さんとの会話、清拭やシャワー介助、baby抱っこを体験した後、他の看護の仕事を見学しました。昼食会では職員とともに病院食を味わい、午後から病院の見学、ミーティングと集合写真撮影など和やかに過ごしました。

参加した高校生は「あんな看護師さんになれるよう頑張ります!」「将来ここで働きたい」などの感想が聞かれ、看護職を目指す学生には将来の看護師像を具体的に描けたようです。

## 秋の夜長にミニコンサート



エントランスホールにて秋のミニコンサートが10月9日に行われました。出演者の方々はお友達が阪大病院に入院しておられ、入院している方々を元気づけようと申し出て下さいました。曲目も「小さい秋見つけた」「里の秋」と秋を感じさせる曲目を選んで下さり、みんなで大合唱して、秋の夜長を楽しんでいただきました。

## 市民対象の病院見学会開催

阪大病院を一般の方々にもよく知っていただくこと、10月2日に15人の応募者を招き、普段目にするこのない病院内を見学していただきました。あいにくの雨でドクターヘリは見学できませんでしたが、未来医療センターでは、参加者に内視鏡操作のトレーニングを体験、さらに薬剤部や小児医療センターなども見学していただきました。

## 市民公開フォーラム

「がん診療の現状と最近の話題」  
参加者募集中!

- 日時 12月5日(土) 午後1時～4時
- 場所 大阪大学医学部講義棟A講堂
- 定員 240名 参加費無料(先着順)
- 講演内容
  - (1)分子標的薬の進歩(血液腫瘍を中心に)  
化学療法部 部長 水木 満佐央
  - (2)がん患者さんが利用できる社会資源について  
保健医療福祉ネットワーク部  
医療ソーシャルワーカー 福森 優司
  - (3)診療所連携で支える在宅緩和ケア  
出水クリニック 院長 出水 明
  - (4)質問コーナー

- 申し込み方法 往復はがき(1通につき1名)に必要事項(氏名、住所)をご記入のうえ、11月20日(金)必着で、下記へお申し込みください。ご参加いただける方には参加票(返信はがき)を送付いたします。  
※申し込みされた方の個人情報は参加に伴う連絡の回答のみに使用します。

- はがきの送付先  
〒565-0871 吹田市山田丘2-15  
大阪大学医学部附属病院総務課広報評価係内  
市民公開フォーラム係

- お問い合わせ  
大阪大学医学部附属病院総務課広報評価係  
TEL: 06-6879-5020、5021

阪大病院の手術部は患者さんの手術が安全に効率よく行われ、質の高い医療を提供できるように日々、努力しています。手術室は17室あり、年間の手術数は毎年増え8500件ものほつています。

手術部という手術をする場所を管理して提供しているだけのようには思われがちですが、多職種の人が連携しながら手術を支援しているのです。医療をテーマにしたテレビドラマなどで手術のシーンが



多職種の連携が手術を支えている

機能の改善・温存をモットーに  
患者さんの負担少ないがん治療

## 耳鼻咽喉科

阪大病院の耳鼻咽喉科の診療する領域は耳、鼻、のどや舌など眼以外の頭部や頸部にある器官や臓器です。一般的な耳鼻咽喉科の病気が

ただでなく舌がん、咽頭がん、喉頭がんなど頭頸部のがんの治療にも力を入れています。耳や鼻、のどは声を出す

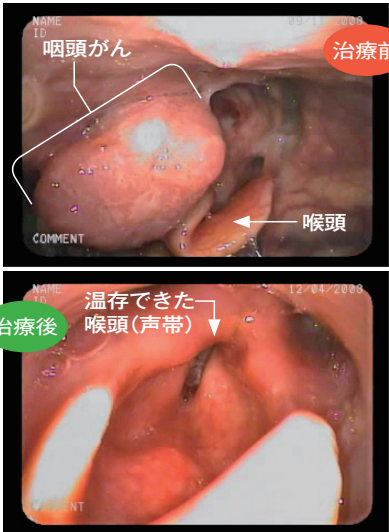
たり、聞いたり、におったり、生活していくうえで大きな負担になります。耳鼻咽喉科では

耳や鼻、のどなどの病気に負担の少ない内視鏡を使った手術を積極的に行っています。音声の異常を担当している

グループも音声を取り戻すために、内科的あるいは外科的に侵襲の

少ない治療を行っています。しかし、現在では抗がん剤を使った化学療法や放射線療法を駆使したがんの治療法を主にして、声を失わないようにしています。

また、再発しても喉頭を温存するような手術をしたり、食べ物を飲み込む機能も失わないように工夫しています。



咽頭がんを化学療法と放射線療法で治療すれば喉頭(声帯)が残せ、機能が温存できる

おったりする器官でもあり人間が活動していくうえで非常に重要な役割を担っています。耳が聞こえなくなったり、声が出なくなったり、におわなくなったりしたら生活していくうえで大きな負担になります。

また、副鼻腔炎・蓄膿症の治療では患者さんの負担の少ない内視鏡を使った手術を積極的に行っています。音声の異常を担当している

グループも音声を取り戻すために、内科的あるいは外科的に侵襲の

少ない治療を行っています。しかし、現在では抗がん剤を使った化学療法や放射線療法を駆使したがんの治療法を主にして、声を失わないようにしています。

また、再発しても喉頭を温存するような手術をしたり、食べ物を飲み込む機能も失わないように工夫しています。

## 手術部

患者さんの命を支える  
細心のチームワーク

出てくる人があり、多くの人が手術にかかわっているのをこころにしよう。

手術室には人工心臓などさまざまな医療機器があります。それらが正常に動かないと大変なことになります。常にモニターで心拍数や呼吸に異常がないかなどをチェックしており、患者さんの手術中の命を預かっているといっても過言ではありません。

手術室には人工心臓などさまざまな医療機器があります。それらが正常に動かないと大変なことになります。常にモニターで心拍数や呼吸に異常がないかなどをチェックしており、患者さんの手術中の命を預かっているといっても過言ではありません。

手術室には人工心臓などさまざまな医療機器があります。それらが正常に動かないと大変なことになります。常にモニターで心拍数や呼吸に異常がないかなどをチェックしており、患者さんの手術中の命を預かっているといっても過言ではありません。

手術室には人工心臓などさまざまな医療機器があります。それらが正常に動かないと大変なことになります。常にモニターで心拍数や呼吸に異常がないかなどをチェックしており、患者さんの手術中の命を預かっているといっても過言ではありません。

手術室には人工心臓などさまざまな医療機器があります。それらが正常に動かないと大変なことになります。常にモニターで心拍数や呼吸に異常がないかなどをチェックしており、患者さんの手術中の命を預かっているといっても過言ではありません。

手術室には人工心臓などさまざまな医療機器があります。それらが正常に動かないと大変なことになります。常にモニターで心拍数や呼吸に異常がないかなどをチェックしており、患者さんの手術中の命を預かっているといっても過言ではありません。

手術室には人工心臓などさまざまな医療機器があります。それらが正常に動かないと大変なことになります。常にモニターで心拍数や呼吸に異常がないかなどをチェックしており、患者さんの手術中の命を預かっているといっても過言ではありません。

少ない治療を行っています。しかし、現在では抗がん剤を使った化学療法や放射線療法を駆使したがんの治療法を主にして、声を失わないようにしています。

また、再発しても喉頭を温存するような手術をしたり、食べ物を飲み込む機能も失わないように工夫しています。

また、再発しても喉頭を温存するような手術をしたり、食べ物を飲み込む機能も失わないように工夫しています。

からだと心にやさしい  
メタボレスメニュー晩秋を味わう  
豚ヒレ、ウナギ  
栄養マネジメント部

活の質を第一に考えて診療に当たっています」と話しています。

活の質を第一に考えて診療に当たっています」と話しています。

活の質を第一に考えて診療に当たっています」と話しています。